

平成24年度地域教育力推進セミナー&ガイダンス

【セミナー&ガイダンスの開催について】 テーマ 「地域と共にある学校づくり」の推進 ～学校と地域の連携から学校・地域パートナーシップへ～

- 1 日時及び会場 平成25年2月25日(月) 13:00 ~ 15:20
奈良県立教育研究所 大講座室
- 2 参加者 県内公立小、中学校長及び教職員、県立学校長及び教職員、
学校関係者、市町村教育委員会、学校・地域連携事業関係者等 320名
- 3 内 容
- 13:00~13:10 開 会 挨拶 奈良県教育委員会事務局
教育次長 松田 登志雄
- 13:10~13:20 地域と共にある学校づくり〈ガイダンス〉
奈良県教育委員会事務局 人権・地域教育課
- 13:20~14:05 発 表 〈ガイダンス〉
地域教育力推進モデル校3校による成果発表
大和高田市立浮孔小学校、大和郡山市立郡山南小学校
香芝市立二上小学校
- 14:05~15:15 講 演 〈セミナー〉
演 題 「地域と共にある学校づくり」
講 師 文部科学省社会教育アドバイザー
青森中央学院大学経営法学部 教授 高橋 興
- 15:15~15:20 閉 会 挨拶 奈良県教育委員会
委員長 松村 佳子



講演の概要

- 昨今の教育状況を鑑みると、地域に目を向けるのではなく、本来やるべきことがあるという気持ちも否定しないが、奈良県が取り組む「地域と共にある学校づくり」の推進は、今まさに大事なものである。
- 奈良県が目指している「地域と共にある学校づくり」は、開かれた学校づくり、学校評議員制度、学校運営協議会制度、学校評価等、法律に基づく二十年近い一貫した教育の後退できない大きな流れである。
- 奈良県らしい人事を議題としない「奈良県版コミュニティ・スクール」の取組は、全国の状況を踏まえた適切な考え方である。
- 学校支援地域本部の本部数が増えているのは、学校にとってメリットがあるからである。
- 「地域と共にある学校づくり」を進めるにあたって、学校は学校及び教員が果たし得る役割の限界を自覚しなければならない。その上で、保護者、地域住民との相互理解を深める必要がある。



- 地域の方にとって様々な思いがある学校を拠点とした「新たなコミュニティづくり」、「絆づくり」には、何らかの具体的な活動によるきっかけが必要である。
- 地域との関係をつくっていくためには、「教職員の発想の転換」が何よりも必要である。また、校務分掌に「コミュニティ部」を組織することは、校内向けだけでなく、地域の窓口があることを校外に発信していくことになる。窓口を担当教員が行うことで、教頭の仕事の集中を防ぐことができる。
- 活動を持続させるためには、活動の前後の雑談が必要であり、熟議できる居場所づくりが必要である。
- 学校として地域に何を求めるのか、どのようにすれば教育効果が上がるのか、明確にする必要がある。
- コーディネーターは、学校と地域等をつなぐ重要な役割を担っている。そういった方は必ずいる。最初から完璧なコーディネーターはいない。実践を積み重ねていく中で育っていくものである。
- 市町村教育委員会は、学校、コーディネーター、ボランティアの活動の条件整備に全力で取り組む必要がある。
- 「地域と共にある学校づくり」を推進するためには、具体的な実践こそが有効であり、まず第一歩を踏み出してほしい。
- 持続的な活動につなげるためには、人的ネットワークと参加の喜び、意欲を高めることが大切である。
- イベント的な取組、学校行事の支援は、取組のスタートとして有効。持続させるためには、活動した後の喜び、自分たちが役に立っているという確認ができる活動が大切である。また、活動できる組織づくりも大切である。

モデル校発表の概要

〈 大和高田市立浮孔小学校 〉

発表者 担当教諭、PTA会長

○ 組織について

- ・校内組織…地域コミュニティ推進委員会
- ・学校コミュニティ協議会…うきあなネットワーク（17名）
2回実施。

チーフコーディネーター（教務主任）として、うきあなネットワークの取組を調整。（会議の中では肩書きではなく、「さん」で呼び合うよう工夫）PTA運営委員会及び職員研修を実施。職員各部、各コミュニティで熟議。

○ 取組について（参画→熟議→協働で実施、地域発の取組）

- ・運動会で地域の婦人会、PTAと協働し、地域の「おかげおどり」を実施。
- ・ふれあいコミュニティ…「読み聞かせ」が誕生（回覧板で募集）。全校集会で昔遊びコーナー（お手玉、コマ回し）を設置。12名の地域の方が参加。
- ・安全コミュニティ…目安箱「ハートフルボックス」の設置。かわいい絵柄の缶バッチを作成し、「あいさつおさんぽたい」を計画。

○ メリットについて

- ・教職員の「やっってもらう」発想から、「自ら関わる」発想へ転換した。
- ・PTAの協力が得られるようになった。
- ・教職員同士のコミュニケーションが深まった。
- ・よりよい教育活動を目指した「地域と共にある学校づくり」への取組につながった。
- ・学校とPTA、婦人会、総代会、地域ボランティアの関係が線から面へ変化。
- ・この取組の積み重ねが、子どもたちと地域の方が顔見知りなり、あいさつを交わしたり、注意や声かけがしやすくなったり、子どもたちを理解し、心温かく見守ってくれるようになる。また、大人同士の信頼関係が生まれ、行事に参加しやすくなったり、関わりやすくなったり、教職員と思いを共有しやすくなったりして、地域の方に支えられているという保護者の心の支えとなる。



〈 大和郡山市立郡山南小学校 〉

発表者 校長、PTA会長

○ 組織について

- ・既存の組織を活用

○ 取組について（これまでの取組の見直しと新たな取組）

- ・地域力を生かしたこれまでの取組…授業ボランティア、学校図書館支援、放課後支援、地域交流、安全見守り、PTA活動の中から（民生児童委員との懇談会、子ども110番の家）
- ・新しい取組（熟議を通して）…みんなで守る我が町 城下町 ～外堀緑地清掃活動～
校門前の外堀で子どもたちが魚釣り→「とってはだめだ」ではなく、我が町の外堀を守っていこうという気持ちを育てたい→PTA会長の発案で外堀緑地清掃活動を計画→PTAや公園課と熟議→5、6年生を中心に実施、自治会長、PTA、公園課の方も参加、市長も激励に

○ メリット及び今後に向けて

- ・熟議を通して、学校、保護者、地域の方お互いの思いを確認でき、取組の見直しを図るとともに、より確かな取組へとつなげていくことができた。
 - ・熟議や取組を通して、保護者、地域の方と協働していこうとする教職員の意識が変容した。
 - ・熟議等の時間の確保を工夫する必要がある。
 - ・次年度は校内組織の改善を図る。
- * 取組を行う上で注意する点は、「目的を共有して進めていくこと」が大切である。
* ボランティアとの関係で大切にすることは、事後の話合いの場が必要である。

〈 香芝市立二上小学校 〉

発表者 担当教諭、育友会長

○ 組織について

- ・校内組織…地域コミュニティ推進委員会
- ・学校コミュニティ協議会…二上コミュニティ
スクールコミュニティマネージャー（教務主任）として、地域関係者及び校内各部のミドルリーダー（コーディネーター）との連絡調整を行う。各部会で熟議を実施。（年間38回）

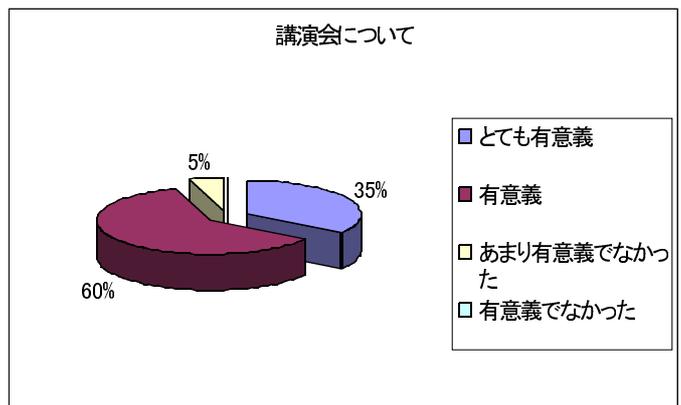
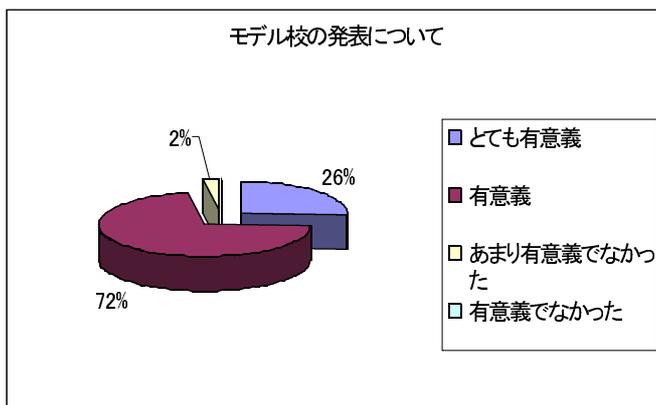
○ 取組について（熟議を通して）

- ・健康教育部会…食育に関するアプローチを行う。オープンスクールで講演会を実施。児童の食育に関する課題（食べもの大切さをわかってほしい、食事のマナーが課題）を共有→方策を熟議で検討→チャレンジ食事マナー週間を実施（食事マナーを意識し、学校と家庭で共通した指導、点検）
- ・体育指導部会…運動会実施の課題点（狭い運動場、観覧マナーが課題）を共有→方策を熟議で検討→観覧の仕方の変更点（立ち見で、入れ替え制に）を文書で周知→当日の運営は育友会役員が実施（運動会に教職員が集中）→観覧マナーの向上

○ メリット及び課題の解決に向けて

- ・地域の方とのコミュニケーションが深まり、共通理解でき、地域の方の意識が高まり、地域の方が学校へ気軽に足を運んでもらえるようになった。
- ・問題点の改善に向けて、協働して取り組み、クリアできた達成感を共有できたことで、当事者意識が少しずつ高まり、保護者、地域、学校の三者の協働による活動が展開できた。
- ・奈良モデルの主旨の理解→地域コーディネーターの配置、学校便り、HP等で啓発
- ・会議の時間の確保→年度当初に計画、長期休業を活用
- ・経費の裏付け→学校・地域パートナーシップ事業を活用

○ アンケート結果から



1 モデル校の発表について

(意見・感想)

- ・小学校の取組が具体的に示され、自校の今後の取組のための参考になった。ご苦勞も多かったと思うが、実践校に敬意を表したい。
- ・具体的な事例だけでなく、PTA会長の方の話を聞いたことで、保護者がどのような思いで参加しようとしているのかがわかってよかった。
- ・モデル校3校の発表はわかりやすく、活動を理解できた。効果はいずれも素晴らしいものであった。
- ・日々の取組、ご苦勞のあったことと思います。本日の報告では、教職員の意識が向上したということで、素晴らしいと思いました。
- ・組織づくりから実施までの概要がわかり、1年間の取組時期や内容が参考になった。
- ・各校ともPTAをうまく組織した取組を聞かせていただいた。熟議、地域の人々を大切にしていきたい。本校では、職員との熟議をしっかりしていきたい。
- ・学校コミュニティについて、具体的な事例が聞いたことはよかった。今後、学校コミュニティを推進していく上で参考になった。
- ・各学校によって、取組み方が違うと感じた。地域の風土や特徴によって形を柔軟に変えないといけないと思う。それぞれが持つ課題に合わせて取り組まれている様子がよくわかった。
- ・本校の課題でもある組織として活動するという意味で参考になった。

2 講演会について

(意見・感想)

- ・学校を取り巻く状況や今日的な経緯などが整理された形で示していただき、地域教育力向上のための取組を進める上で、大切にすべき方向をとらえることができた。
- ・学校・家庭・地域の役割の重要性が、現状を踏まえた話であり、その方向性を示していただき、納得できた。
- ・学校内外の事情、国の施策など全て含め、理解した上でのお話がとてもわかりやすかった。
- ・地域と共にある学校づくりに取り組んでいくため、今後、私たちがやることを教えていただいた。今回、教えていただいたことを一つでも実践に結び付けたい。
- ・今までいろいろな話を聞いたが、今回ほど内容が今の私たちの現状、問題に直結していると感じたことはなかった。
- ・本校は中学校として県下初のCSとして指定されたが、その在り方について模索が続けている。地域の力を活用した本来の意味の「CS」＝奈良モデルへの方向修正が必要であると、高橋先生の話から改めて感じた。
- ・これまでの学校・保護者・地域との関わりから、今後あるべき関係性について、学校、教職員が共通理解することが重要であり、発言していくことも必要である。地域を巻き込むつもりで取り組み、地域と共にある学校を強く意識していきたい。
- ・学校コミュニティを導入する意義を理解することができた。
- ・学校だけでなく、地域や市町村教育委員会のすべきことなど研修になった。
- ・これまでの経緯をもとに、ようやく「奈良モデル」の方向、意味がわかりました。解決しました。

3 その他について

(意見・感想)

- ・セミナー等に参加する回数が増える度に理解が深まっている。
- ・市町村教育委員会の研修や意識改革の研修も必要だと思う。
- ・第一歩を踏み出していくためのいい刺激をいただいた。研修会を企画、実施いただいた皆様方に感謝したい。活動を継続させること、教職員のモチベーションをいかに高め、子どもたちに返っていく取組になるよう、今後も研修会等の持続的な実施をお願いしたい。
- ・実践発表、講演ともに「教職員の意識改革」が重要であること、実践することで教職員の意識改革が進むことがわかった。来年度、一步を踏み出したい。